

# 仲原化石

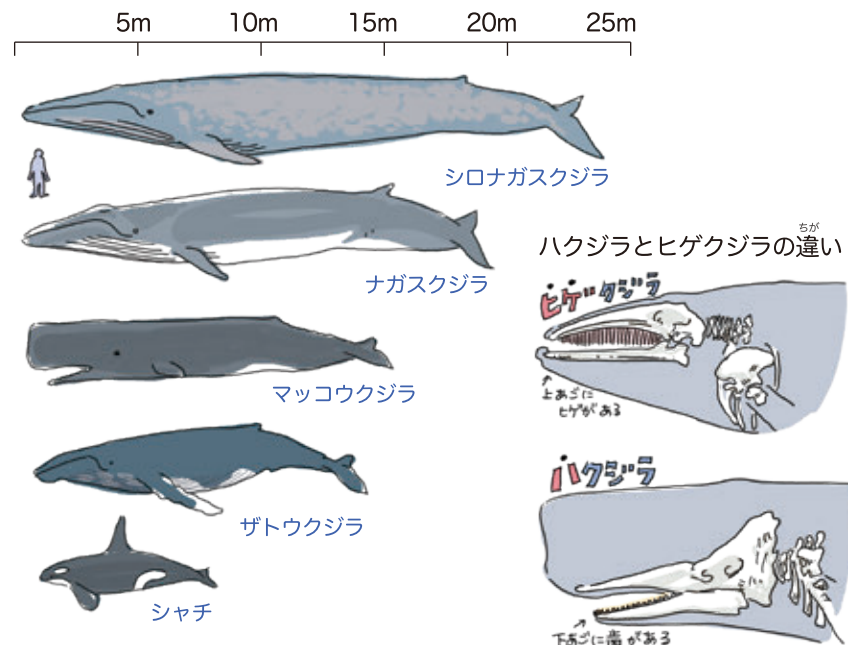


仲原化石はくじらの化石で、断崖約50m下の波打ち際にあります。岩につきささるような形で残っています。岩から露出している化石は、長さ60cm、幅30cm、厚み20cmほどで、全長10m以上もあるヒゲクジラ亜目の下あごの骨の一部であるとされています。城辺地区で確認されたクジラはこの1点で、詳細は明らかにされていません。宮古では他にシマジリクジラ化石が発見されています。



## クジラまめちしき

よく名前を聞くクジラたちを簡単に比較してみました。



亜目	科	属	種名
ヒゲクジラ (14種類) 下あごの一部 仲原化石	コククジラ科		
	コセミクジラ科		
	ナガスクジラ科	ナガスクジラ属	シロナガスクジラ
		ザトウクジラ属	ザトウクジラ
ハクジラ (70種類)	マイルカ科	シャチ属	シャチ
	マッコウクジラ科		
		マッコウクジラ属	マッコウクジラ



# 西里添下里添 福里コース

散策コース

所要時間：1時間30分  
(約18km)

前井と御神木  
その周辺の植物群落 P36

←平良市内

宮古島リハビリ  
温泉病院

246

78

ながまゆうびんきょく  
長間郵便局

じりつじょうとうちゅうせいじょうしょう  
市立城東中/西城小

きゅうにしなききょうどう せい どうじょうえん とう  
旧西中共同製糖場煙突  
旧西中共同製糖場跡 P28

198

よした こうみんかん  
吉田公民館

にしにしこうみんかん  
西西公民館

ぐすくべの  
アギイス(西中) P20

にしちゅうこうみんかん  
西中公民館

んみかーすく  
嶺沼 P33

いこいの森  
展望台 P37

福里村総代 西里蒲  
生誕地の碑 P34

ふくなんこうみんかん  
福南公民館

ふくちゅうこうみんかん  
福中公民館

ちか こうえん  
地下ダム公園

福里地下ダム

ふくとうこうみんかん  
福東公民館

宮古島市  
地下ダム資料館 P26

にしじょうこうみんかん  
西東公民館

なかはらこうみんかん  
仲原公民館

うたき  
ビマル御嶽

うやんつ  
親道

仲原地下ダム

235

ずっと切り立った  
断崖絶壁が続く

なか はら か せき  
仲原化石 P22

ムイガー  
40mほどの  
崖下にある

うやんつ  
親道

地下ダム満水時の範囲(おおよそのイメージ)

おおあめ ちか すい ちひょう あふ  
大雨で地下水が地表に溢れ  
ないよう、仲原ダムより水  
い ひく すながわ みず にが  
位の低い砂川ダムに水を逃  
がすための地下排水路

うやんつ  
「親道」



しょうほう くに え ず  
「正保の国絵図(1646)」に  
書かれている村番所を繋ぐ  
主要道路。道路の整備など  
で多くが消滅しているが、  
ところどころ残っている

あいはらてい だ  
子方天太の  
生んだ十二方位神  
のひりて、子室の神  
「アファナス神」として  
信仰されている

すながわ ちか  
砂川地下ダム

390

うるか  
砂川

201

235

インヤ

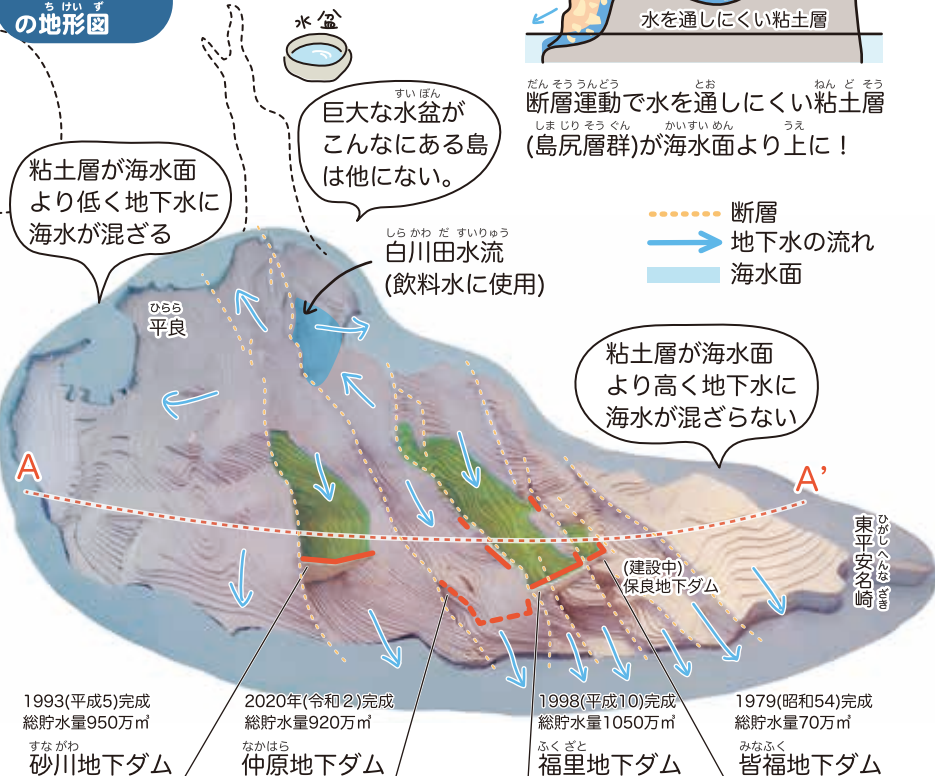
ここから  
遠浅の4-Fが続く



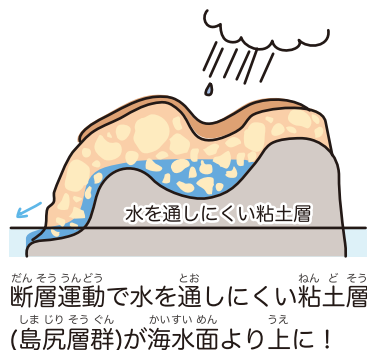
## 宮古の地下水と地下ダム

宮古は水のない厳しい島だと思われていましたが、1972(昭和47)年の沖縄本土復帰後に行われた調査によって、地下に大量の水が蓄えられることがわかり、世界初の大地下ダムをつくることで、生活や農業を安定して行うことができるようになりました。

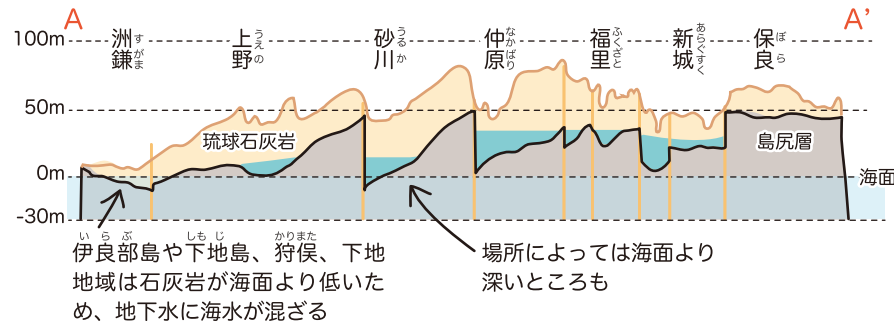
### 琉球石灰岩の下の島尻層群の地形図



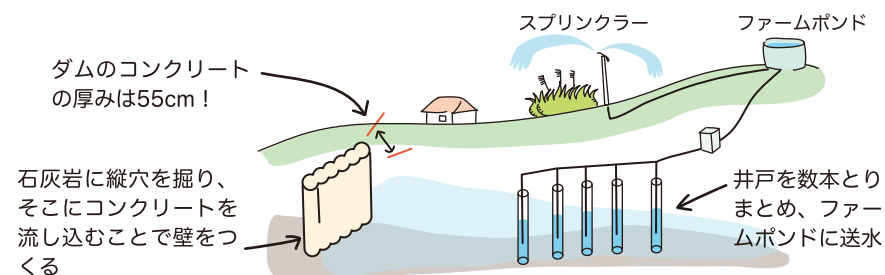
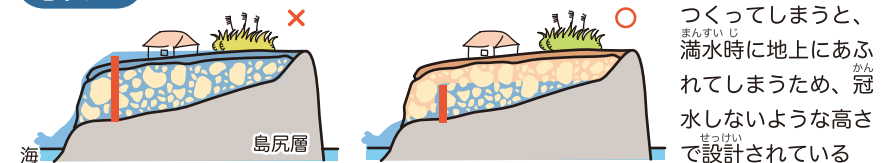
琉球石灰岩は  
隙間だらけ。



### 断面図



### 地下ダム



### 宮古島市地下ダム資料館

資料館では、地下水のメカニズムや、地下ダムの仕組みを、映像や模型などを使って分かりやすく解説しています。併設されている水位水質監視施設も歩いていける距離にあり、福里地下ダムの止水壁と、実際に堰き止められている地下水を見ることができます。



くに どうろく ゆう けい ぶん か ざい けん そう ぶつ  
国登録有形文化財(建造物)

2013(平成25)年6月21日指定

きゅう にし なか きょう どう せい とう じょう えん とつ  
旧西中共同製糖場煙突

し し てい し せき  
市指定史跡

2017(平成29)年11月22日指定

きゅう にし なか きょう どう せい とう じょう あと  
旧西中共同製糖場跡



きゅうにし なかきょうどう せいとうじょうあと しょうわ そうせつ こう  
旧西中共同製糖場跡は1942(昭和17)年に創設された製糖工場です。農家で組合を結成してお金を出し合い、建築資材は組合員が漲水港(現在の平良港)から運び入れるなど、並々ならぬ力を注いだといわれています。製糖場は2、3回操業しただけで、戦争で旧日本軍の強制接收にあい、操業中止に追い込まれました。現在はその煙突と冷却水施設の跡が残っているだけです。



戦時中の西中共同製糖場

めいじ  
1881(明治14)

さいばい  
はじめてサトウキビが栽培される

1883(明治16)

こくとう せいさん  
黒糖が生産される

1884(明治17)

せいとう ぎ し くすくま せいあん  
製糖技師 城間正安が宮古へ

1894(明治27)

おきなわけんくんれい しょうれい  
沖縄県訓令で栽培が奨励される

1929(昭和4)

ながちゅう みなふく はなきり  
長中・皆福・花切に  
こがたせいとこうじょうけんせつ  
小型製糖工場建設

1931(昭和6)

たいふう ぜんかい  
台風で3工場とも全壊

1932(昭和7)

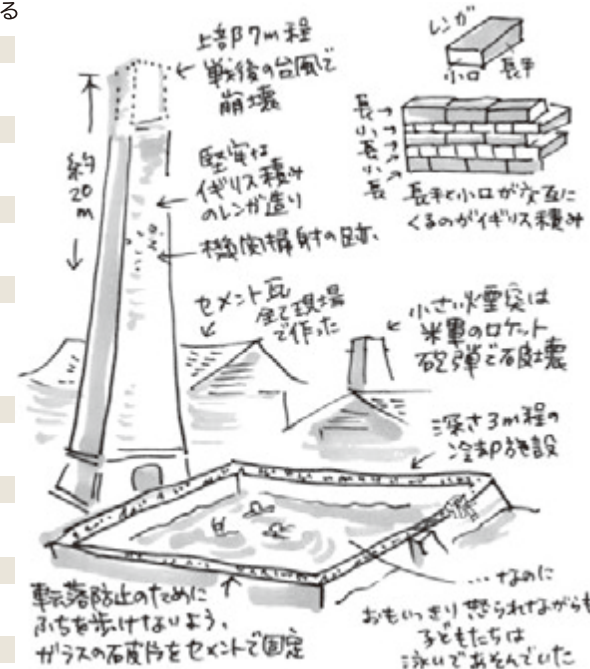
ふたたび たいふう  
再び台風で全壊、廃業

1942(昭和17)

うる か にしちゅう ちゅうがた  
砂川と西中に中型製糖工場建設

1944(昭和19)

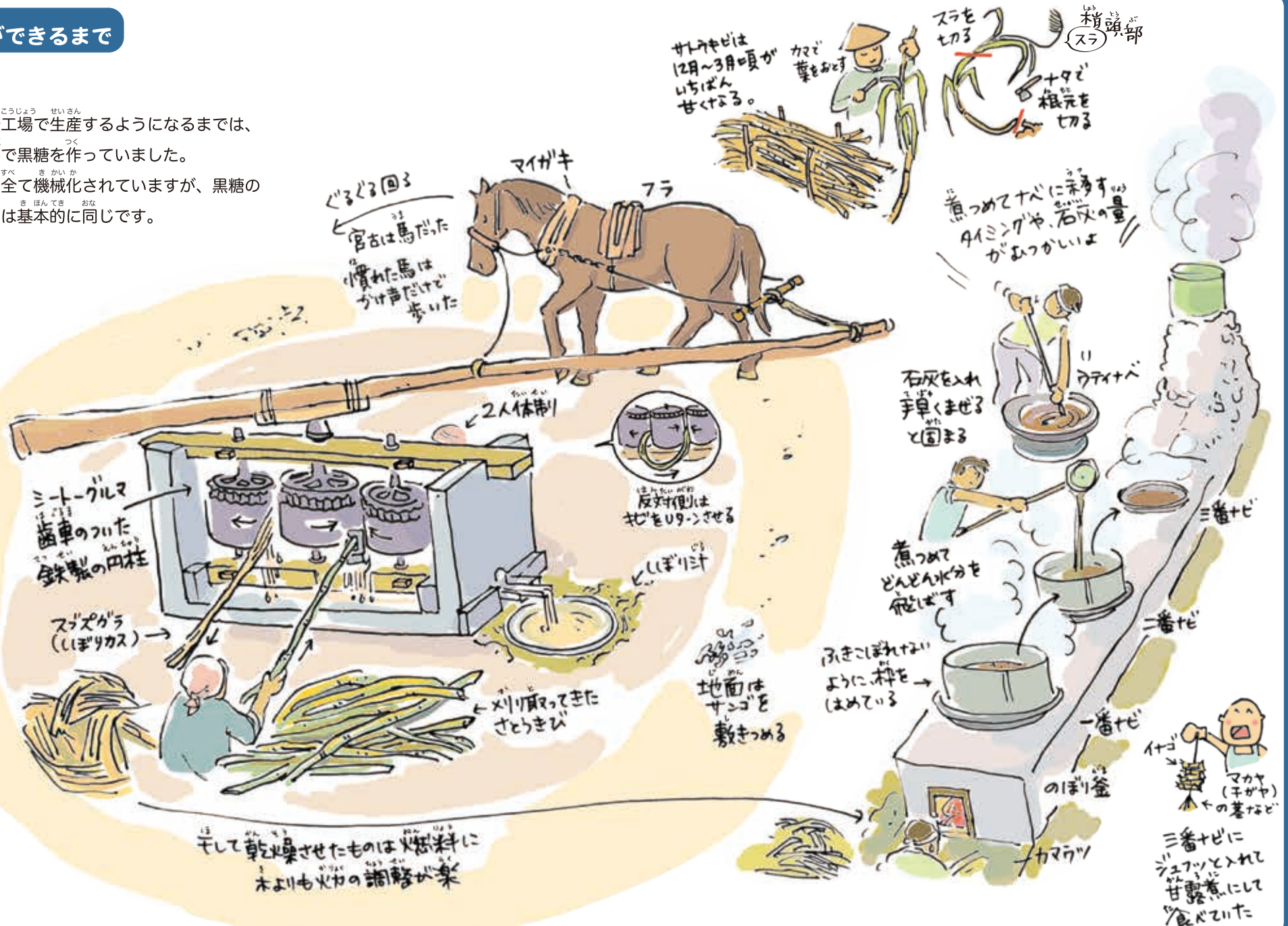
きゅうに ほんぐん きょうせいせつしゅう そうぎょうていし  
旧日本軍に強制接收 操業停止





こくとう  
黒糖ができるまで

せいとうこうじょう せいさん  
製糖工場で生産するようになるまでは、  
かくしゅうらく つく  
各集落で黒糖を作っていました。  
いま すべ き かい か  
今は全て機械化されていますが、黒糖の  
かた き ほん てき おな  
作り方は基本的に同じです。





# 上区の獅子舞



1892(明治25)年、人口の増加に伴い下里村から5つの集落が分かれ、下里添村となりました。その際、下里村の長が村分けの祝いとして2頭の獅子を贈ったといわれています。

上区の獅子舞は、十五夜に行われる豊年祈願祭で奉納されるなど、集落の人々から大切にされている伝統行事です。また、魔除け、厄除け、区民の協和、豊作の守護神としても信仰されています。



## 唐金兄

上区の獅子舞で踊るクイチャーの中に「唐金兄」という歌があります。歌詞の中に「嶺沼」という地名が織り込まれており、古くからの集落独自の歌であることを示しています。嶺沼は水場として利用されていた沼地でしたが、耕地整備などの影響を受け、いまは残っていません。

### 唐金兄(抜粋)

- 唐金兄が 最初ぬ  
出逢まずさやヨー(ヤイヤヌ)  
ヨーイマーユヌ  
出逢まずさヨー(ニノヨイサッサイ)
- 嶺沼ぬ ヤラブが下んどう  
出逢まずさやヨー  
ヨーイマーユヌ  
出逢まずさヨー(ニノヨイサッサイ)

この頃は厳しい人頭税の時代。  
上布を織り上げることは、生活に関わる大変な問題だった。

唐金はいい男という意味もある

昔、唐金兄という男がおりました。彼の住む集落の北方の嶺に、まっすぐにのびた1本の立派なヤラブ(テリハボク)が生える「嶺沼」という沼がありました。

ある日、唐金兄はそのヤラブの下で女性と出逢い、夫婦になりました。

ふたりは出逢った思い出の木を家の棟柱にし、残り地機(機織り機)をつくりました。

ある日、妻が布を織っていると、ふと愛しい唐金兄のことが頭に浮かび、織り間違えてしまいました。失敗してしまったと悲しんでいる妻に、「なげくな、あわてるな」と唐金兄は励まします。

気を取り直した妻は、なんとか布を織り上げることができました。





## 城辺と人頭税

旧城辺庁舎の敷地内に、人頭税廃止の顕彰碑が建っています。また、城辺地域内には人頭税に深く関わった平良真牛、上原戸那、西里蒲の3名の碑が建つなど、人頭税廃止運動と城辺地域は深い関係にあります。

旧城辺庁舎内の顕彰碑



保良村総代 平良真牛生誕地の碑



新城村総代 上原戸那生誕地の碑



福里村総代 西里蒲生誕地の碑



※総代 = 村長

## 人頭税年表

- 1609(慶長14) 薩摩侵攻。琉球王朝、薩摩の支配下に
- 1637(寛永14) 宮古・八重山に人頭税制をしく
- 1659(万治2) 年貢の総額を毎年一定額にする

男は粟、女は上布  
を糸めねばならぬ



毎日働いても  
おさめきれない...

度重なる  
暴風雨・えき病  
熱病・大かんばつ  
↑  
3000人も  
亡くなった。

しかも...



着物は1年中  
1着だけ。  
米どころの粟すら  
食べたことはない。  
家は茅がきで  
すき間だらけ...

- 1879(明治12) 廃藩置県にともない琉球は沖縄県に
- 1884(明治17) 城間正安、製糖技師として  
那覇から宮古へ赴任

次第に廃止運動が強まっていく

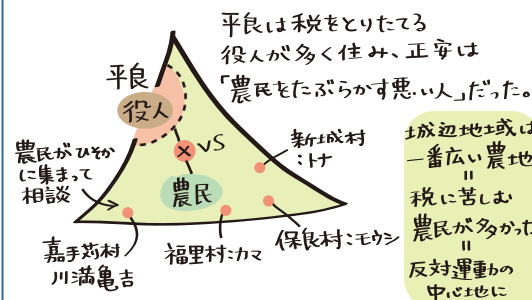
黒砂糖づくりを  
教えようにも、  
そんな余力は  
ないじゃないか!



正安

- 1892(明治25) 中村十作、真珠養殖事業で宮古へ
- 1893(明治26) 人頭税廃止請願のため、代表4人が上京

なんてことだ!  
これではダメだ!



城辺地域は  
一番広い農地  
税に苦しむ  
農民が多かった  
反対運動の  
中心地

宮古口沖縄ローカル標準語

正安: 通訳  
十作: 道案内&人脈

モロシ&カマ: 農民代表

トケ&亀吉: 各番役  
誰か一人でも欠けたら  
言清原はなし文はかた

東京へ

- 1895(明治28) 請願書が国会で可決
- 1903(明治36) 人頭税廃止
- 1964(昭和39) 顕彰碑建立

266年!

当時は飛行機もラジオもない。  
宮古から一歩も出たことのない、  
宮古のことばかり話せる人たちが  
役人の妨害にあいながら島を出て、  
船と列車を乗りついで東京へ  
行くことは、ものすごく大変だった。  
旅費は、農民のなけなしのカンパだった。



## 新瀨に宮古島!?

中村十作の生地、新潟県上越市板倉区稲増には、十作の業績を称えた記念館が建てられ、十作や人頭税廃止運動に関する資料などが展示されています。また、集落内には宮古島をかたどった記念公園が整備され、島田橋の親柱は宮古の石灰岩が使われています。このことをきっかけに1980年頃から宮古島市と上越市の交流が始まり、現在もお互いに訪問交流を行っています。



平安名崎灯台下の案内板には板倉町が載っている



中村十作記念館



宮古の琉球石灰岩を使った親柱



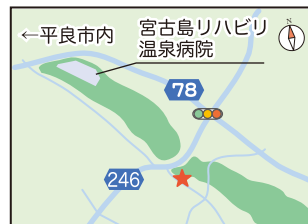
宮古島をかたどった記念公園



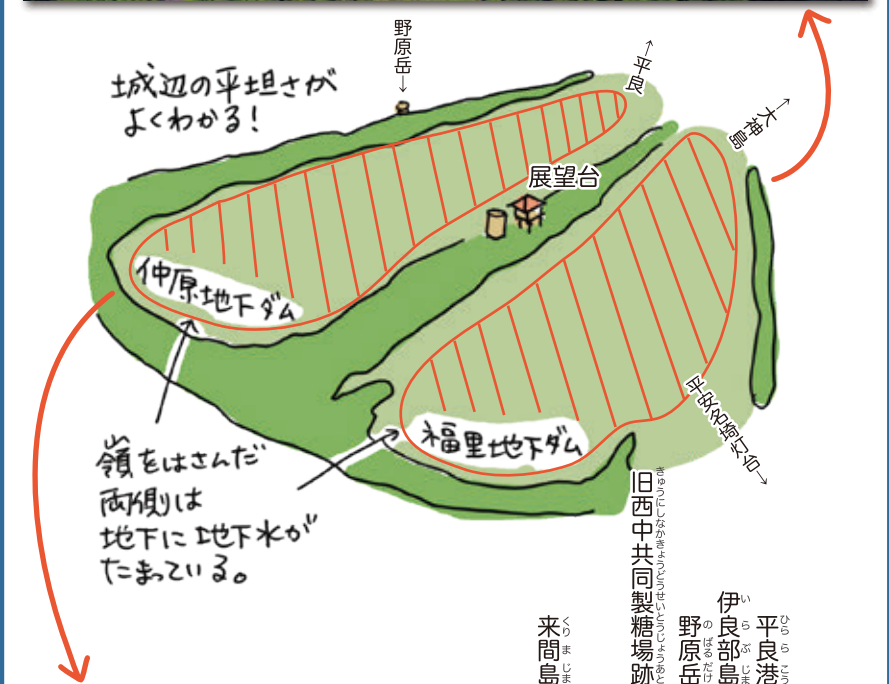
# 前井と御神木その周辺の植物群落



前井は下里添西部と長間南部の住民が利用した洞窟泉で、汲み取りが大変で不衛生なため、竪穴式の井戸に改築されています。当時は道を挟んだ北側にウツバラ井がありました。湧き出る水量が少なく、汲み取るのに時間がかかり、ブー(芋麻)を續んで順番を待ったことから「ブーンムガー」とも呼ばれています。周辺はデイゴをはじめ亜熱帯特有の植物群落があります。



## 城辺を一望できるいこいの森展望台





# 比嘉・長間コース

← さん さく 散策コース

所要時間 : 約 1 時間  
(約 16km)

..... じゃりみち





## 西銘御嶽



西銘御嶽は、西銘の嘉播親が居を構えた西銘城の跡地といわれています。北側は断崖に面し、周辺は水田が広がっていました。全体の規模ははっきりしていませんが、城壁らしき石垣もみられ、青磁片などが広範囲に見つかっており、井戸もふたつ残っています。嘉播親は、炭焼太郎ともいわれ、後に長女が宮古を統一する目黒盛を生み、次女の於母婦が飛鳥爺と結ばれています。



## 飛鳥御嶽の植物群落



西銘城主だった飛鳥爺が祀られる飛鳥御嶽の植物群落は、御嶽林として古くから手付かずで残された原生林です。シマヤマヒハツ、ナガミボチョウジ、ヤブニッケイ、タブノキ、オオバギ、ハマユビワなどがよく見られ、特にモクタチバナが多いのが特徴です。さらに野鳥の営巣地や周辺畑地の防風林、そして地域住民の信仰対象として、古くから地域の人々に大切にされています。





# 飛鳥爺の物語

わしは　　むい　　すん　　むら　　ま　とくがに  
 昔、箕の隅という村に、真徳金  
 おとこ　　ゆう　ち  
 という男がいました。「その勇猛  
 とら　　はや  
 なさまは虎のようで、その早さは  
 と　　とわり　　い  
 飛ぶ鳥のよう」と言われるほど、  
 ぶ　　ゆう　　すぐ　　あし　　ゆみ　　めい　じん  
 武勇に優れ、足が早く、弓の名人  
 でした。

その頃、西銘城主の西銘按司  
に、於母婦という美しい娘がいま  
した。跡継ぎがおらず良い婿はい  
ないかと思っていたときに真徳金  
のうわさを聞きつけ、於母婦の婿  
にどうにかして迎えたいと考えま  
した。

そんなおり、村の神女が「<sup>しんじょ</sup>一斗<sup>いっとう</sup>  
の餅<sup>もち</sup>をくれたら真徳金<sup>まんとくぎん</sup>を呼び寄せ<sup>よ</sup>  
てみせる」と言うので、<sup>まか</sup>任せ<sup>よ</sup>てみ  
ることにしました。すると、老夫  
婦は箕の隅村の子どもたちに餅を  
<sup>くば</sup>配<sup>かみ</sup>り、これは神様からの<sup>つ</sup>お告<sup>つ</sup>げだ  
と言って、「西銘按司の娘、於母  
<sup>つき</sup>婦<sup>は</sup>は月に照<sup>はな</sup>り栄<sup>にお</sup>え、花の匂<sup>にお</sup>いのす  
<sup>かわい</sup>る可<sup>てん</sup>愛<sup>てん</sup>い娘だ。飛鳥真徳金とは天  
<sup>あめ</sup>が決<sup>め</sup>めた夫婦<sup>ふうふ</sup>で、この夫婦<sup>ふうふ</sup>は天<sup>あめ</sup>  
を照<sup>て</sup>らし、島<sup>しま</sup>を覆<sup>おお</sup>うほどに栄<sup>さか</sup>える  
<sup>うた</sup>ぞ」という歌<sup>うた</sup>を歌<sup>は</sup>わせ、流<sup>は</sup>行<sup>や</sup>らせ  
ていきました。

その歌を聞いた真徳金は、神様  
のお告げならばと西銘村を訪ね、  
噂通りの良い男に満足した按司  
は、娘と結婚させました。按司の  
死後、西銘城主となった真徳金  
は、人々から飛鳥爺と親しまれ、  
次第に領地を拡大し、飛鳥城も築  
きます。

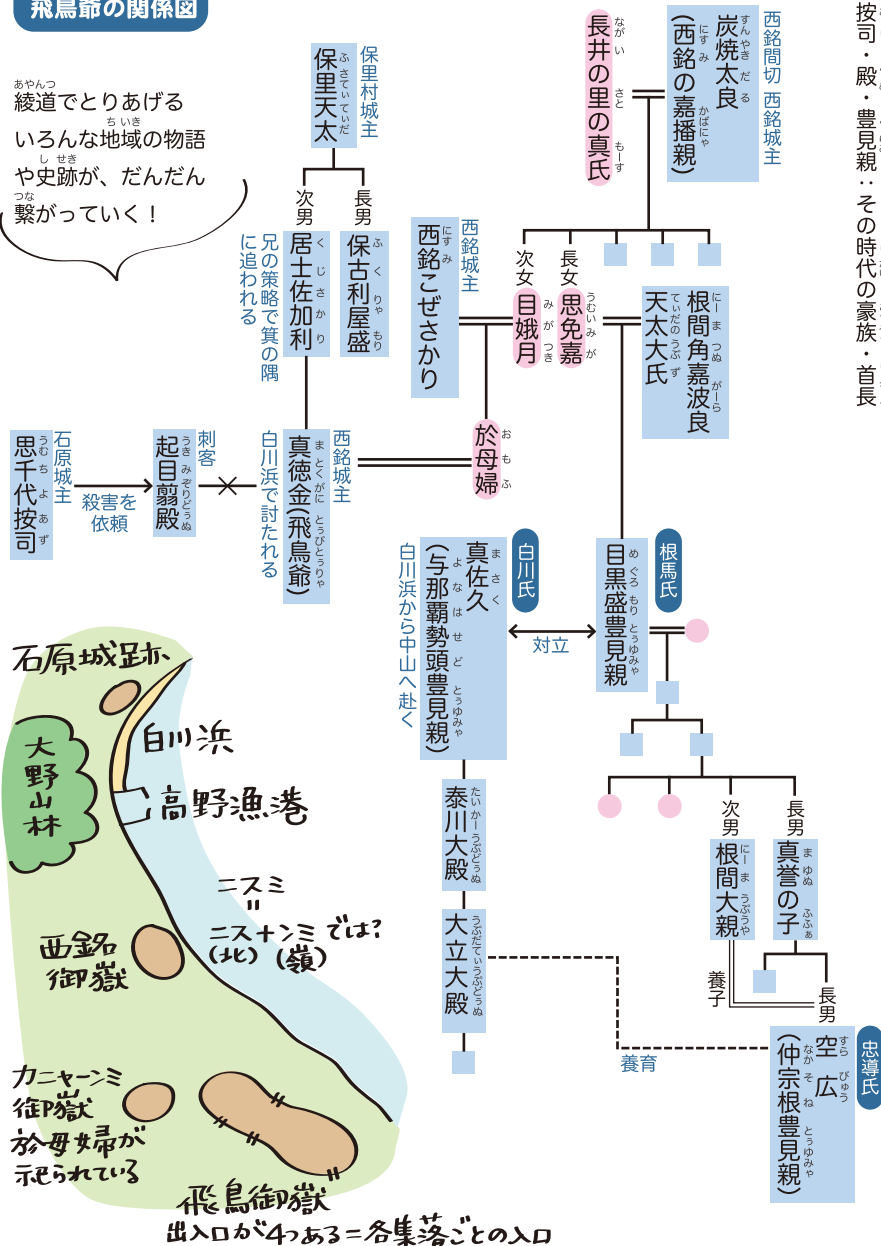
その威勢に不安を抱いたのは西  
銘村の西にある石原城でした。城  
主の思千代按司は飛鳥爺が度々領  
域を侵していたので、なんとかし  
て討ちたいと思い、弓使いと名高  
い起目翦殿を刺客に雇いました。

そしてついに、飛鳥爺は白川浜  
で起目翦殿に弓の勝負を挑まれ、  
策に負けて両目と胸を射抜かれて  
殺されてしまいました。

飛鳥爺の死後、西銘村の集落は  
しゅうらく  
 ずい たい  
 衰退してしまいます。その後、こ  
 ち おうらい つぎ つぎ やまい  
 の地を往来する人々が次々と病に  
 かかって死んだので、飛鳥爺のた  
 たりではないかという噂が広が  
 り、しる あと 城跡にコーバナこう こめ (香と米)を捧  
 げ、飛鳥爺の亡魂を慰めるようにな  
 りました。

とうびとうりゃ      かんけいず  
**飛鳥爺の関係図**

あやんつ  
綾道でとりあげる  
ちいき  
いろんな地域の物語  
し せき  
や史跡が、だんだん  
つな  
繋がっていく！



※西銘村、石原村、箕の隅村は古琉球期にのみ伝わる村

やま がー

# 山川ウプカー



山川ウプカーは、山川集落から北へ500m程のところにある湧泉です。『雍正旧記(1727年)』に「山川但洞川。掘年数不相知」と記されており、古くから知られていますが、いつ頃造られたのかは分かりません。

山川ウプカーは水量が豊富で、水田の水としても利用され、大切にされてきました。



## 宮古有数の水田 ナガマダー

ウプカーの豊富な水は崖下に肥沃な土地を形成し、通称長間田と呼ばれる水田が広がっていました。宮古の中でも有数の米の産地で、琉球王府の尚真王が仲宗根豊見親に与えた

土地でも知られています。

1975(昭和50)年頃、サトウキビ栽培が盛んになったことやリゾート開発の影響で、長間田の水田も姿を消してしまいました。

仲宗根豊見親が尚真王より与えられた土地を記した木刻



『木刻拝領地之図』：宮古島市総合博物館展示品より

1960年頃のナガマダーの水田の様子



『Military Geology of the Miyako Archipelago, Ryukyu-Retto 1960』  
宮古島キッズネット

